

# 『ビッグイシュー』販売員募集開始！

## 第1回説明会 7名参加。27日最終登録日。先着100名まで。

8月6日、市民館で「ビッグイシュー」販売員の説明会が開かれた。

「ビッグイシュー」が、野宿生活者の収入の道を増やすために創刊される雑誌であることは、すでに知っていることと思う。左の図のように、一冊90円で仕入れて200円で売る。一冊110円が自分の儲けとなるわけだ。一日50冊売れば、10,000円の売り上げ。しかし、翌日の50冊の仕入れ代金(4,500円)を残しておかなければならないから、自分の自由になるのは5,500円。

10日間、50冊売れ続ければ五万五千円の儲けとなるわけだ。

そんなにうまく売れるか、という疑問は当然。

6日の説明会会場でも、参加者から、創る立場でなく、売る立場になって考えて、本当に売れるとあんなたちは考えているか、という質問が出た。

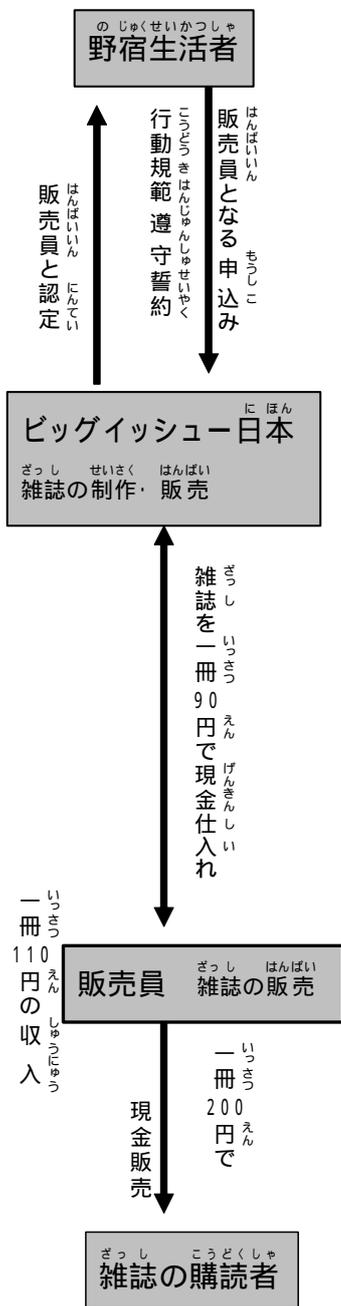
欧米ではともかく、日本では初めての雑誌の立ち売りなのだから、正直言って、先行きの不安は雑誌を創る側にもある。

しかし、雑誌を創る側としては、大の大人が借金まで抱えて始めた仕事だ、売れないでは済まない。走り出したからには、キット売れると信じざるを得ない。

最大の不安は、企画倒れに終わることだ。今回の企画の最大のねらいは、野宿生活者が販売員となって、野宿生活者の収入拡大となることなのだが、ワシャ人相悪いから買ってくれる人はおらんだらう、とか、男の売り子じゃ売れっこないと、実行する前にあきらめる人が多くて、販売員となる人が揃わないことだ。

雑誌はできたが、売る人がいない、では、闘わずして負けと言うことになる。

願わくば、人生意気に感ず、ワシも一口乗ったという声が多からんことを！



## 第1回発売日は、9月11日、身近な問題になった？

「ビッグイシュー」発行計画は、9月11日と11月6日が確定している。12月について、発行は確定だが具体的な日程は未定。来年1月から月2回発行となる見込み。

この発行計画からすれば、販売員が安定して儲けにありつけるのは来年1月からということになる。それまでには、ビッグイシューが本当に売れるものかどうか、明らかになっているだろう。販売員として登録するのは、それからでも遅くはない。そんな様子見をしたくなるような状況ではある。

だが、9月1回だけであったとしても、売った分は儲けになるし、1回目がなければ2回目はない道理だ。5万部の雑誌が、販売員の不足から売れ残るようなことになれば、2回目はかなり危うい。

また、5万部を、100人で10日間で売っても、10人で100日かかって売っても、5万部がはけることは同じだが、中身が違ってくる。

雑誌にも寿命がある。発行日から10日くらいだったらまだ新刊だが、1ヶ月も経てば古雑誌だ。同じ雑誌を1ヶ月も2ヶ月もかかって売るのは、雑誌を売るのではなく、同情を売ることになる。そんな事態は、望む所で

はない。同情を売るのではなく、雑誌を売って収入を増やそうというのが本旨なのだから。

物事に新しく取り組むのは、難しい。物を売ることには経験が不足しているということもあるかも知れない。

そういうときは、自分のためだと思わないで、人助けだと思った方が、身体を動かしやすいかもしれない。

仲間のために、現金収入の道を増やすことに貢献する。ワシが売って、売って、売りまくって道をつけてやる。そんな意気込みで参加してみてもどうだろうか。

立派な見本誌もあります。見て下さい。

## 今後の予定

### 販売員登録受け付け—先着百名まで

#### 8月27日午後2時 西成市民館

販売員証や宣伝用見本の手渡し、販売場所の割り振り、販売のルールなどの再確認。

#### 9月3日 事前体験行動日

宣伝用見本を百部ずつ、各自の販売場所で配布する日。発売日を前に雑誌の宣伝と共に、「舞台なれ」するために。

#### 9月10日 発売日前日(配本開始)

発売日の前日、とりあえず、10冊は無料で手渡します。それを売って元手を作り、あとは90円で現金仕入れして販売することになります。元手のある人は何冊でも仕入れ可。ただし、売るのは腕次第？

---

販売員登録申込用紙は釜ヶ崎支援機構事務所にあります。

随時受け付け = ビッグイッシューを販売するには、顔写真付の販売員証(IDカード)が必要です。販売員証はすぐできませんので、事前に申し込んでください。

8月26日までをお願いします。そうすると翌日の27日に間に合いますから。